

第2部◎和光大学の学生活動にみる「共生」とは

## 「ムーブメント教室」にみる共生

小林芳文 *KOBAYASHI Yoshifumi*

大橋さつき *OHASHI Satsuki*

健康な子どもそうでない子ども、特に障害のある子どもは、楽しい活動としてのムーブメント教育・療法が大好きである。そこには、遊び、優しさ、動的な環境、人間（じんかん）などが関わる「共生」への繋がりを見ることができ。ここではこの教育・療法が持つ共生力について、和光大学での取り組みをも含めてその姿に触れてみよう。

### 1. そのための場づくりに向けて

和光大学地域連携講座、教育重点充実事業「包括的共生概念の構築」の合同企画、「遊びの場づくりに役立つムーブメント教育・療法の理論と実際」が、2009年7月19日～11月14日に開催された。この間の4回講座に、遠くは山形県からの親子参加もあり、保護者、教員、保育士、療育者、施設職員、障害を持った子どもなどを含め、まさに「みんな違ってみんないい」の共生を支える講座となった。参加者のアンケートによると、講座の満足度は高く、さらなるこの種の講座の開催を希望する感想もあり、今後の共生学の方向を定めるに相応しい講座であった。本学の身体環境共生学科の特徴を説明する時、そこに実践学としてのムーブメント教育・療法の学問の位置付けが確認されたように思う。

和光大学の教育のキャッチフレーズは、「身体の全てで学ぶ」にある。ムーブメント

教室は、これまで大橋ゼミを中心に大学と地域連携、保護者連携による子どもの発達支援を進めてきた。特に、障害児が保護者と共に参加する遊び教室として、またポジティブな子育ての活動の場として機能してきたように思う。2009年度の4月からは、ムーブメント教育・療法を日本に広めてきた小林芳文も加わった。ムーブメント教室の場づくりは、共生学の柱づくりと考えると、今後の課題が沢山見えてきた。

障害児の発達や教育支援の新しい流れは、1990年半ば米国の公法で位置づけられた I F S P (Individualized Family Service Plan) の影響が大きい。それまでの訓練センター中心から、家族参加型への方向である。障害児を抱える家族が、子どもの育児に直接関わる流れである。保護者はコーディネーターなど専門家と協力して家庭の環境を整え、遊びをベースにした活動を子どもの側面で進めるのである。楽しいムーブメント活動で括っているムーブメント教室は、家族や支援者が子どもの目線に立った場づくりとして育児に良循環を生む活動であり今日の子育て事情に果たす役割は大である。

### 2. ムーブメント教育・療法へ期待

米国の神経心理学者の M. Frostig は、「身体運動は、全ての能力の総体になりうる」とし

て、ムーブメント教育・療法の理論を構造化した。発達や教育、療育と結びつけた「遊びに付加価値を与えた学問」である。この分野での世界の著名なリーダーは、フロスティッグの他にドイツのE. Kiphard (clumsy childrenの支援などmotologyモデルの構築)、スイスのS. Naville (psychomotorの研究) が知られている。現在、我が国では、NPO日本ムーブメント教育・療法協会が中心となり、大学などの機関と協力して専門士の養成が進められている。子育て支援、保育、学校教育、特別支援教育、高齢者健康支援、重症児者のQOL支援など多くの分野で、楽しい感覚運動、知覚運動、精神運動の活動ができる人材を望んでいるように思う。特に特別支援教育や療育分野は、そのニーズが最も高い。

ムーブメント教育・療法の中心的ゴールは、「健康と幸福感の達成」にあるが、そのキーワードを挙げれば、身体性（活動の中心軸）、環境性（浸透的活動、動的活動）、遊び性（自発的、快的）、関係性（人的、物的）、発達性（個性的、全体的）となる。「共生の扉」を開けるためにどのキーワードも必要なものである。そして「扉の鍵」としての支援アセスメントやそれに連携しているプログラムも作られている（MEPA-R、MEPA-IIなど）。

### 3. 和光のムーブメント教室

活動の基本の流れは、まずフリームーブメントである。ここでは子どもたちは環境に慣れ、自分の好きな遊具で自由に遊ぶ。支援者



ムーブメントの花形、パラシュートでぬいぐるみをジャンプさせる学生たち。皆の心が一つになりファンタジーの世界に入る。

は子どもの様子を見ながら、環境の浸透性としての力を出し子どもの楽しさを引き出していく。続いてのダンスムーブメントは、身体意識を中心に単純な動きから始まる気持ちを駆り立てる活動である。次に設定（課題）ムーブメントである。このムーブメント教室のメインとなる集団活動であるが、個々人に対応したプログラムも実施する。ダイナミックな活動として、パラシュートのムーブメントも毎回入れている。最後に振り返り、そこで子どもたちにムーブメント活動の記憶を整理する。和光ムーブメント教室は、学生達の参加によるドラマムーブメントのプログラムが自慢である。季節感を大切に活動、ストーリーを取り入れた活動も感動を呼んでいる。

〔こばやし よしふみ・和光大学現代人間学部身体環境共生学科教授〕  
〔おおはし さつき・和光大学現代人間学部身体環境共生学科准教授〕